

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日令和4年9月10日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4690300043
法人名	有限会社三井・メディックス
事業所名	グループホーム新川
所在地	鹿児島県鹿屋市新川町5385番地1 (電話) 0994-40-5750
自己評価作成日	令和4年7月28日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NP0さつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和4年9月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・「食べる楽しみを維持する」事は、体力・体調維持に大きく関わるので、食後の口腔ケアも、個人ごとにスタッフが付き添い、観察を行いながら実施しています。月1回は、歯科衛生士のチェックを受け、義歯調整や、残歯等の問題がある時は、歯科受診につなぐことで、口腔トラブル防止に努めています。また、季節行事食、屋外活動時など手作りのお弁当を用意する機会も多く作っています。

・「座る」動作が維持できる方は、トイレに行くことを繰り返すと、おむつから、布パンツで過ごせるようになる方もいます。「漏らす」「汚して迷惑をかける」など、不安な気持ちが軽減できると「トイレに行きたい。」と伝え、一部でも「自立」に向けたケアへ繋ぐようにサポートしています。

・普段のケアについて、無意識に「不適切」な対応などが無いか、毎月振り返りを行うことで、チームとしての意識を向上できるようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、閑静な住宅街に位置し近隣には、稲荷神社、大型スーパー、ガソリンスタンド、コンビニエンスストアなどがある。同敷地には、訪問看護ステーションや居宅介護支援事業所があり日常的に連携している。

地域とは、町内会に加入し運営推進会議を通じて相互に情報共有しているが、コロナ禍であるため地域行事や日頃の付き合いは自粛している。

ホームの理念は、「笑顔で満足、あきらめない」であり開設当初から掲げている。利用者の笑顔が絶えることがないよう取り組むといったものである。毎月の目標の実践や年間目標が別にあり、目標達成のため職員一人ひとりが自己評価を実施、ミーティングで振り返りをおこない毎月の目標について話し合い、見直しを柔軟・随時行い理念を深めるための時間を設けている。

運営推進会議は、2ヶ月毎に催されているが新型コロナウイルス感染症感染拡大予防ため現在は、書面にて開催されている。管理者は、事前に会議資料を会議メンバーに郵送し、出された意見を事業所の運営やサービスに活かすよう努めており、家族には全員送付して意見や要望などを聞き取り、サービス向上や見直しに繋げるよう取り組んでいる。

防災意識の高い事業所であり、事業所の継続を意識した計画立案についても積極的に取り組んでいる。

年2回防災訓練を実施し、備蓄や備品のチェックを兼ねてテーマを決めシュミレーションをおこない利用者や職員の意識向上を図っている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	「笑顔で満足～あきらめない～」という理念より、年間目標や、毎月ミーティングでは「今月の取り組み」を立て、サービス向上を意識出来るようにしています。	開設当初からの理念はリビングに掲示され、利用者が笑顔になることを目標に年間目標を設定、職員一人ひとりには毎月の目標にて取り組み、職員ミーティングで話し合い評価し実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	年間計画では、地域行事参加、体験学習の受け入れを予定していますが、現在はコロナのため実施できていません。	新型コロナ感染拡大のため町内会との活動を控えているが、近隣の方が生花を届けて下さったり、運営推進会議への書面参加を通じて事業所の取り組み状況や地域の状況などを情報交換している。鹿屋市広報誌の配布もあり市全体の情報収集をしている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	中学校の体験学習の受け入れを毎年実施していますが、現在はコロナ感染予防のために中止となっています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	月2回、運営推進会議を実施していますが、感染予防のため書面開催で実施中です。資料より活動の報告、運営状況が伝わりやすいように努めています。	会議は2ヶ月毎に書面にて開催しているが、家族全員に事前に会議資料を配布し意見聴取、会議メンバーからの意見聴取後書面にて報告し情報共有を図っている。資料は、写真などを用いわかりやすく説明し、インシデントやヒヤリハット事例を検討しサービス向上に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の資料を通し、ホームの活動等の報告を行っています。	市担当者とは、電話やメールなどで事業所の取り組み状況を知ってもらい、入居相談や業務について指導や助言をもらっている。地域包括支援センター主催による権利擁護研修やレビー小体型認知症体験学習も学び、自己研鑽しサービス向上に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	学習会、ミーティングを毎月実施し、その中で身体拘束に関する内容の確認や、不適切なケアに繋がる事など定期的に確認や、伝達の機会を維持しています。	サービス向上委員会があり、毎月研修も開催しており不適切な言動や対応をしないよう意識向上を図っている。シートタイプのセンサーを活用している方がいるが、目標を明確にして漫然と使用することがないよう必要性について検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学習会、ミーティングを通し、虐待防止の法律や、内容など定期的に確認しています。また、地域包括支援センター主催の研修に参加する機会を作っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修への参加、ホーム内でも制度について計画しながら学ぶ機会を維持しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約書等より、利用料金、加算や入院時の取り扱い等説明を行い、加算等の変更や追加がある場合も、文書等を配布し理解いただけるようにしています。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会や、計画書の変更時に実施する担当者会議より、家族からの意見や要望の確認を行っている。具体的に伝えにくい利用者についても、普段の関わりから要望など確認する事もあります。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症のため面会制限をしているが、更新時やケアプランの説明をおこなう際には、事務所で家族と直接面談し説明と同意をいただくようにしている。職員はそれぞれ担当者がおり毎月の生活状況等を書面にて知らせている。家族には運営推進会議資料を配布し意見聴取しているため運営についても随時意見聴取し出された意見を運営に反映するようにしている。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月のミーティングを通して、スタッフ間で意見交換し、取り組み事項を提案する機会を維持しています。</p>	<p>ミーティングや申し送りなどで意見交換し情報共有したり、IT機器活用により業務連絡、職員から出された意見を運営に活かしている。長期休暇を設けてリフレッシュする機会があり離職も少なく人間関係も良好である。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>資格手当があり、勤めながら資格の取得も可能です。働きやすい職場づくりの一つに、長期休暇を儲けることで、リフレッシュの機会に繋がるようにしています。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>ホーム内の学習会を毎月実施し、テーマに沿って意見交換を行う機会を維持しています。外部研修については、オンライン研修等へ参加する機会を作るようにしています。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>オンライン研修等への参加を実施し、外部と交流機会を設けるように努めています。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の相談時に、現在過ごしている場所へ訪問や、担当のケアマネージャーや、医療機関の担当者等より情報を確認し、利用者の要望など確認するように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の相談時に、困りごとや不安な事、入居後の生活に対する要望を確認しています。また、話しやすい雰囲気づくりも意識し関わるようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の相談時に、利用者本人が望むことを確認し、他の関係者等の意見も含め入居に限らず、他のサービスも視野に入れながら対応をしています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の生活場面より、利用者本人が参加できる家事や、身の回りの事が少しでも関わる場面を作るようにサポートしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入所時に、ご家族へ協力していただくこと、出来ることを確認しています。利用中も、ご家族の意見も確認しながら、ケアに取り組むように努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染対策より、面会などが難しくなっていますが、以前より利用している訪問カットを継続し利用するなど馴染みの関わりを維持できるように工夫しています。	面会の要望は、柔軟に対応しており、テラスにて面談をしてもらい安心していただいている。近所への散歩、クリスマス会での写真などは家族に提供している。ドライブ外出は利用者全員で楽しんでおり、地域の馴染みの場所に出かけている。また、手紙や電話の取次ぎの他、携帯電話を使用される方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事参加や、レクリエーション活動を通し、利用者間の交流機会を維持しています。その中で、お互いに声掛けや、手助けを自然と行っている場面も見られます。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前施設利用していたご家族が、現在も運営推進会議のメンバーとしてサポートして頂いています。退去後も必要に応じ、相談などに応じるようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々に合わせ、生活支援を行い、意向を伝える事が困難な方についてご家族へ確認しています。情報はスタッフ間で共有するようにしています。	普段の暮らしやカンファレンスなどで利用者の思いや希望などを汲み取り、本人の次の行動を予測し意思疎通を図り転倒などがないよう配慮したり、本人らしく暮らせるよう取り組み、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、ご家族や本人より生活習慣や、希望等を確認し、その方の生活リズムに合わせてるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ホームでは、日課等のスケジュールがありますが、個々の状態に合わせて過ごせるようにサポートしています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居前は、関係者の意見なども参考に、ご家族や本人の意向を確認しながら、介護サービスを作成しています。利用中も、定期的に見直しを行い、その時に応じたサービス提供に繋がるように努めています。	毎月の生活状況や事業所の取り組み状況などを詳細に情報提供しつつ、電話などで情報交換している。また、アセスメントやモニタリング結果を踏まえ家族と面談し、目標やサービス内容などについて話し合い現状に沿った介護計画書を作成している。3ヶ月毎のモニタリング、6ヶ月での見直しなど柔軟に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録は、その日の担当が決まっており、ケアや関わりを通して、気づいた点など記載しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	かかりつけ医は入居後も変更せず、通院もホーム看護師等でサポートを行っています。入院中は、医療機関と連絡を取りながら、本人の負担軽減目的も含め、早期退院できるよう働きかけることもありました。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の民生委員、消防団や、地区担当の警察官が、運営推進会議のメンバーとして参加して頂いている。現在は書面開催となっているが、ホームの活動などを資料を通し報告している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後も、かかりつけ医の変更はなく、信頼している医師のサポートを継続できるようにしています。受診はホーム職員で対応しています。	利用者や家族の希望するかかりつけ医であるが、定期受診や他科受診は職員が対応している。訪問歯科診、薬剤師との医療連携がある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所で看護師を配置しており、日常の健康チェックを行い、体調変化等がある場合は、随時連絡が取れるようにしています。医療管理が必要な場合は、訪問看護や在宅医と連携し、必要な医療提供が継続できるようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は、医療機関の相談員と連絡を取り、情報交換を行っています。長期入院により認知症の進行、身体機能の低下を防ぐために早期退院などの調整を行う事もあります。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の指針があり、入居時はその内容について、説明を行っています。利用時に必要性に応じ、在宅医や、訪問看護ステーションのサポートをもらい、ホームで必要な医療管理を継続することもあります。	重度化や終末期に向けた指針があり、看取りに対する事業所の体制については指針にて説明している。今年、7月に看取りの事例があるが、看取りについては、主治医や家族、事業所間で十分に協議し本人や家族の納得のいく最期が迎えられよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	学習会やミーティングで、緊急時の対応手順について確認する機会を維持しています。これまで救命講習に参加することもありました。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回防火訓練を実施しています。毎月、備蓄品のチェックと補充も随時行い、備蓄食品の使用期限に合わせ、ライフラインが停止したことを想定しシミュレーションすることもあります。</p>	<p>防災管理チェック表にて年2回避難訓練を実施、今年は、停電をテーマにシミュレーションし、炊き出し訓練、備蓄の点検や活用、排泄では、汚物処理を実際に行いました。浴槽には常時、水を張る、備蓄をするなどして日々、災害対策をおこなうなど防災意識の高い事業所である。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	学習会やミーティング等で、不適切な関わりなどの事例を挙げ、対応など振り返る機会を維持しています。介助中は、敬語を意識し、声のトーンなどにも配慮しています。	朝の申し送り、気づきノートを回覧し職員間で情報共有するなどルール化している。言葉使いや態度など接遇に対する教育を徹底しており、ヒヤリハットにも繋がっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個人の希望を確認するようにしています。例えば、食事面で嗜好を確認し、苦手な食材などは、別メニューで対応するなど、希望に合わせています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	夜間、心配なことなどから眠れないと言われる利用者もいます。その時は、同じテーブルで過ごしたりし、その方のペースを優先に対応するようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	入浴後は、パジャマに着替え、起床時は普段着に着替えることで、メリハリを付けられるようにしています。定期的に、訪問カットを利用することで、身だしなみの支援も行っています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に合わせた行事食や、外出時は手作りのお弁当を用意することで、食べる楽しみに繋がるようにしています。利用者も食後は、下膳の手伝いなど、参加する機会を作っています。	感染対策のため現在は、席次を利用者同士背中合わせにして食事提供。調理担当者がおり、外出の際は手作り弁当を用意、行事食や季節の祝い食など嗜好を検討して食事を楽しんでもらっている。本人の誕生日には、好きな料理やケーキなどを提供している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量を記載することで、変化が無いか確認しています。水分摂取が少ない方は、飲みやすい物を勧めるなど、負担にならないように工夫しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は、洗面所でスタッフと一緒に口腔ケアを実施しています。月1回、歯科衛生士のチェックを受けながら、口腔の保清と機能低下防止に繋がるようにしています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレの間隔を排泄チェックシートで確認し、声掛けすることで、トイレに行く習慣を維持しています。	排泄チェック表にて、排泄リズムを把握し、トイレ誘導している。尿意、便意があつてトイレ移動される方も多く、羞恥心や不安感に気配りをおこないつつながら排泄の自立に向けて取り組み、乳製品、バナナ、オリゴ糖などを積極的に摂取して腸内環境が整えられるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、オリゴ糖入りの飲み物を用意し、便秘防止も工夫しています。便秘日数の確認を行い、個人に合わせて対応を行うことで、便秘が改善することもあります。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	午後より入浴時間があり、希望に合わせて入浴介助をしています。お風呂を楽しみにしている方が殆どですが、億劫に感じて入らない方についても、声掛けなど工夫しています。	入浴が日課になっており、午後から本人が希望する時間に入浴介助している。バスリフトが設置してあり、車いすの方や歩行などに不安がある方など、全員が安全に入浴できるよう配慮し入浴介助している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は希望に合わせて、朝、昼食後はベッドで横になり、休息する時間を作り過ごしています。夜間眠れない方も、スタッフと一緒に過ごし、安心できるように努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理、介助を通し確実に服薬が出来るようにしています。また、手順などのマニュアル作成をし、誤薬防止にも努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	衣類をたたむなど、出来る作業などを通し、役割を作っています。利用者より、「畳もうか?」「持っておいで。」とスタッフに声をかける方もいます。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染予防のため、屋外に出かける機会が少ないが、行事を通し公園等に出かけています。「今度は、どこに連れて行ってくれる?」と楽しみにされています。	新型コロナウイルス感染症を把握しながら、利用者の希望や体調を把握し、ドライブしたり季節の花見見物に行くなどして外出を楽しんでいる。日常は、天候を見ながら近隣を職員と一緒に散歩などし気分転換をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>利用者で金銭の管理は難しい為、ご家族やスタッフでサポートしています。中には、少額を個人的に所持することもあります。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>個人で携帯電話を持っている方もおり、家族と会話を楽しまれることもあります。会話が出来る方は、電話で近況など話すこともできます。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共有空間では、排泄臭防止、感染予防のため、衛生面に配慮しています。特にトイレや洗面所は使用頻度も多いので、こまめに掃除を行い、不快なく使用できるようにしています。</p>	<p>玄関から共有スペースが一望でき採光があり清潔な空間でウッドデッキは、来訪者の面会や利用者の気分転換に活用されている。体調別の室内空間利用をおこないコロナ院内感染対策を実施、換気や消毒などを徹底しながら利用者が不快に感じることはないよう配慮している。毎年利用者全員で干支にちなんだ作品作りをおこない、クリスマスツリーの飾り付けをしている。また、一人一鉢ずつ花の苗を育てている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>食事以外は、ソファや居室でくつろぎ、他利用者間で会話を楽しむこともあります。一人で部屋にいるのは寂しいと、スタッフの側で過ごす方もいます。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入所時は、馴染みの家具などを持って来ていただけるように伝えています。入所後は、各利用者に担当スタッフを付け、居室環境の整備、衣替えなど行っています。</p>	<p>エアコンやベッド、クローゼットが設置しており、入居時に自宅で使い慣れた家具や寝具などを持ち込み、家族写真や利用者の作品などを掲示して居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>コールボタンを使い、スタッフを呼ぶことを繰り返し伝えると、トイレに行きたいなど伝えることができるようになる方もいます。その方に合わせて、出来そうなことは、分かりやすく伝える工夫も行っています。</p>	/	/

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない